水を大切に

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

三島 陽葵

私は中学二年生の夏に、学校の宿泊研修で滋賀県へ行き、琵琶湖の水の水質調査をした。

その中でも関西の多くの府県の水源が琵琶湖の水であり、私が住む奈良に流れる淀川系の川の水源でもあることを知った。琵琶湖の水は、梅雨の時期などに降水によつて一時的に貯められる。そして、琵琶湖の唯一の自然流出河川である瀬田川から水が流れ出て多くの川と合流し、関西の各市町村へと運ばれていくのだ。

私はニュースで、降水量が少ないことや水の蒸発量が多いことにより琵琶湖の水位が減少していることを知った。今までは、琵琶湖の水位が減少したら水生生物の数が減少するのかな、滋賀県内の各所に供給する水が不足してしまふのかなと、他人事のように考えていた。だが実は、私達の暮らしにも大きく影響を与える問題だということを宿泊研修で学んだ。

関西では、琵琶湖の水が農業用水・工業用水・生活用水として利用されている。琵琶湖から流れ出てくる水のおかげで、私達は「当たり前」の生活を送ることができている。私達が普段から食べているものも、日常から使っている便利な機器も、蛇口をひねるだけで出てくる綺麗な水も、すべてが当たり前にあるわけではないということを実感した。

琵琶湖の水位減少問題は、琵琶湖の水を利用して生活をしている私達も、関西や関西周辺に住んでいない人にも関係があると私は考える。琵琶湖に限らず、近年の地球温暖化による気温の上昇により、水不足が世界で問題になっている。

私は水を普段の生活の中で無駄にせず有効活用する方法を考えたととき、水道水の代わりに雨水を利用できないかと考えた。インターネットで調べてみると、一部の地域では地面の下や公園、施設内に大容量の貯水槽を取り付け、雨水を貯留していることを知った。貯められた

雨水はトイレ用水や植栽への水やり、防災用水や農業に利用されているそうだと、さらに調べると、全国の雨水貯留タンクの設置数は少なく、私の住んでいる地域にはまだこのような設備は整っていない。私は、雨水貯留タンクのような設備の設置を多くの場所で実践するべきだと感じた。日本だけでなく、世界でもこのような措置をとることによって水不足の問題を少しでも改善することができないのではないかと考えた。

暮らしの身近にあるものほど当たり前の中に感じられるが、実際は当たり前ではないことを実感した。私達が様々な生活の場面で利用している水も例外ではない。水は有限だ。だからこそ、私達が「水」という大切な資源を守つていく必要がある。

あなたも、水を守るために自分自身が何をすることができているのか、考えてみてほしい。改めて周りを見渡したとき、物事への見方や考え方が変わり、あなたの日々の生活が大きく変わる

ことだろう。